

# 第31回

## うつのみやこども賞だより

平成26年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『アヤカシさん』

富安陽子／著（福音館書店）

～読んだ本の感想より～



- ブローチのアヤカシがいていた「人も、ものもどれかにつながろうとしている」という言葉がなるほどと思った。この本を読んで、私が持っているもののアヤカシがさびしがらないように、ものを大切にしたい。
- ケイとメイおばさんとの位置関係がおもしろかった。
- 一章一章のアヤカシのメッセージを考えていくのがおもしろかった。ものが人にメッセージを伝えるという現象がおもしろかった。
- アヤカシというものは、わるいものばかりなのだろうと思っていたが、この本ではちがった。アヤカシにあってみたい。

●僕は注意力が散漫なので、気付いていないだけで実はアヤカシに見守られているのかな、と思った。

『片目の青』

陣崎草子／著（講談社）

- 人間の自然や生き物との付き合い方について考えさせられた。つり蔵と青の詳しい関係を知ってみたいになった。
- 真矢の変化に、とても心をうたれました。お母さんの力もすごいなと思いました。
- 真矢が沙雪や壮大と知り合っていくことで青の正体を知り、保護に立ち向かおうとする姿は勇敢で格好よかった。
- 人にはうら、表あるんだなとあらためて思った。真矢が集会で大人たちに反対したので、少しすっきりした。

『鈴狐騒動変化城』

田中哲弥／著（福音館書店）

- 狐のおツネちゃんがかわいくてすごくキュンキュンしました。
- 仲間をたくさん集めてお鈴をかえしてもらおうと努力をするところがいいと思いました。仲間どうしのやりとりもおもしろかったです。
- 殿様の城に乗り込むところが一番印象に残った。
- 喜六は本当にバカだなと思った。「むはははは」のおツネちゃんの笑い声がおもしろかったです。

『まほろ姫とブッキラ山の大テング』

なかがわちひろ／著（偕成社）

- テングが何か新しいことを学ぶと鼻がちょっとずつのびること、知しきを他の人に分けると、鼻がちぢむことにおどろきました。
- 大テングが少しずつまほろ姫に心を開いていく所がおもしろかったです。
- たくさん言い争いをしていたので二人はとても仲がいいんだなと思いました。昔話のようなお話なのでとても読みやすかったです。
- たぬきがばけるときに使う葉っぱは、ただの葉っぱじゃないんだと思いました。
- テングのためにまほろ・茶々丸がテングミソを作る所がよかった。